

平成 20 年度 普及に移す農業技術(第 1 回)

[分 類] 普及技術

[成果名] セルリーのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルが有効である。

[要 約] セルリーのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルの 4,000 倍液を散布する。

[担 当] 野菜花き試験場 病害虫土壌肥料部

[部 会] 病虫部会

1 背景・ねらい

セルリーではアブラムシ類、ハモグリバエ類をはじめとして各種害虫が発生し、大きな被害を引き起こす。なかでもアブラムシ類はCMVの媒介虫であるため、ウイルス病対策上も問題となる。しかし、登録薬剤が少ないため殺虫剤が求められている。アドマイヤーフロアブルはアブラムシ類に卓効を示す有効な薬剤と考えられ、普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1)セルリーのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルの 4,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

アドマイヤーフロアブル

[一般名及び成分含量] イミダクロプリド 20%

[毒性] 人畜毒性：劇物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況(平成 20 年 9 月 18 日 JPP ネット確認)]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り 散布液量	使用時期	本剤及びイミ ダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	使用 方法
セルリー	アブラムシ類	4,000 倍	100 ~ 300L	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布

3 利用上の留意点

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにする。
- (2) ミツバチに対して影響を与える恐れがあるので、散布に際してはミツバチとその巣箱にかからないように注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

- (1) モモアカアブラムシに対して、多発生条件下にもかかわらず処理 3 日後から高い防除効果が認められた(表 1)。
- (2) 薬害は認められなかった。

表1 モモアカアブラムシに対するアドマイヤーフロアブルの効果

(平成19年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	処理前			3日後			7日後			薬害
		有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計	
アドマイヤー フロアブル	4000	337	1869	2206	5	0	5	1	0	1	なし
無処理	-	185	858	1043	173	895	1068	79	344	423	

値は20小葉当たりの3反復合計個体数、()は補正密度指数

試験場所：野花試験内ほ場 対象害虫発生状況：多発生

品種：「コーネル619」1区7.5m² 3反復 定植：5月22日

処理方法：2007年6月5日に規定濃度の薬液を背負い式動噴を用いて10aあたり200Lの割合で散布。

調査方法：処理前(6月5日)、3日後(6月8日)及び7日後(6月12日)に各区に生息する有翅、無翅別個体数をカウント。薬害は肉眼観察による。

$$\text{補正密度指数} = \frac{\text{処理区処理後密度} \times \text{無処理区処理前密度}}{\text{処理区処理前密度} \times \text{無処理区処理後密度}} \times 100$$

6 その他特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験、平成19年度(2007年度)、民間受託